

事業所職員向け 児童発達支援自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	14		<ul style="list-style-type: none"> 親子参加のクラスは広い部屋を使用している。親子参加のプログラムを実施するときには、狭いと感じることもあるが、プレイルームなどのスペースを利用し、一部屋に入る人数が多くなりすぎないように工夫している。 施設の構造上、庭のスペースはないが、日常的にテラスを利用して外遊びを行っており、秋には運動会への取り組みで5階にあるホールを利用する機会を多く持っている。砂場の設置もないが、室内で感触系の遊びに意識的に取り組んでいる。
	②	職員の配置数は適切であるか	13	1	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法上の基準以上の職員を配置したうえで専門職員の指導も実施している。 午後の事業により職員の業務負担が多くなっている。事務量の削減や会議を効率的に行えるような工夫が必要と思われる。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	15		<ul style="list-style-type: none"> 蛇口ハンドル式の水道を利用しているが、蛇口ハンドルをひねるという動作を行うことは、手の操作性を発達させていくことに効果があり、意図的に取り入れている。
	④	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	14	1	<ul style="list-style-type: none"> 分離クラスは部屋の広さが異なっているため、環境設定や別スペースの利用など工夫して心地よく過ごせるよう努めている。 加湿器や空気清浄機を設置し、快適に過ごせるようにしている。また、通所終了後には、使用した玩具や生活スペースの消毒を行っている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	14	1	<ul style="list-style-type: none"> 係会議、個別支援会議や、各専門職とクラス担任による合同フィードバックの機会に情報を共有し、支援の方針を決め、振り返りを実施し、次年度の支援に活かしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	15		<ul style="list-style-type: none"> 年1回施設評価アンケートを実施し、意向を把握し、改善につなげている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	14		<ul style="list-style-type: none"> 保護者向け評価表については、保護者連絡会で結果報告し、改善点への対応について報告している。その結果を踏まえて実施した自己評価については、区のホームページで公開している。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	12	1	・前は令和2年度に実施しており、業務改善につなげている。またスーパーバイザーからの助言を受け、業務を改善している。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	15		・様々な研修が用意されている。係のOJTや職員資質向上研修も有意義だと思うとの意見があった。こども発達支援事業所ネットワーク参加事業所に向けた、地域向け講座にも体制をとりながら職員が参加した。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	15		・アセスメントの内容を個別支援会議で報告し、係内職員で共有している。全体に共有できるようにしている点と意見があった。個別支援計画は、職員全員が出席する会議で内容を検討している。各専門職も作成・検討に参加してもらい、それぞれの立場からの意見を得ている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	14		・標準化されたアセスメントツールをもとにして独自の様式を作成している。聞き取り票を使って、子どもの発達の状況を確認し、保護者の希望を書き加え、聞き取り内容を整理した文書を作成している。個別支援会議で検討することにより、客観的かつ合理的な状況把握はできている。 ・今後、発達検査以外も使用していけるとより良いと考える。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	12	3	・それぞれの支援について具体的な計画を立案している。特に発達支援の部分を具体的に示すこと、その援助方法について具体的に示すことについては、会議での検討、文章の修正を繰り返しながら、完成させている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	15		・個別支援計画は立案したあと、個別のケース記録に目標についての取り組みを記入することを基本としているため、日々目標についての支援を実施している。
	⑭	活動のプログラムの立案をチームで行っているか	12		・専門職からの助言を活かして、クラス職員がプログラムを立案している。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	12	1	・運動プログラムについては作業療法士からの助言を得て工夫した取り組みを行っている。 ・クラス活動については、同じことを日々繰り返すことで身につけられるということにも配慮しながら立案している。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	14		<ul style="list-style-type: none"> ・日々繰り返し取り組む必要があることについては、個別活動として毎日取り組めるように立案している。 ・集団活動については、簡単に基本的ルールを理解して行動できるように取り組んでいく計画を作成している。 ・子どもの発達段階に応じて立案するため、必ずしも個別活動と集団活動を組み合わせての立案はしていない。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日行っている。その日の着席位置や職員のつき方、特別に配慮が必要な事項などについて、確認している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ毎日行うよう心掛けているが、午後にプログラムがある日は難しい。 ・ケース記録の記入と同時に行っているため、十分な振り返りが難しい場合がある。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援に関しては、電話対応を含めて、きちんとした記録を残している。 ・個別支援計画の経過について記録できる様式を用いており、個別支援計画の効果や、検証を行い、計画の見直しについての会議に活かしている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	14		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングは定期的実施し、計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	14		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任のほか障がい児支援計画担当者、福祉事務所職員、利用している児童発達支援事業所職員などが参加して実施している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・相談を担当する職員を中心にして緊密な連携を行い、支援に活かしている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	9	3	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設では医療的ケアや重症心身障害のある子どもの支援は行っていない。 ・地域にある関係各機関との連携は実施している。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	9	3	<ul style="list-style-type: none"> ・通所児の主治医と連携して、てんかん発作時の対応方法や、救急搬送先についての相談を行っている。 ・通所で特別な対応が必要なケースについては、受診に同行して、詳細な内容を医師から直接聞くこともある。

保護者との連携	②⑤	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	14		<ul style="list-style-type: none"> ・移行が決まると、保護者の希望により、幼児発達支援室で実施してきた療育の方法や、子どもの成長の様子を詳しく記入した療育経過報告書を保護者に対して発行し、移行先に提出できるようにしている。必要に応じて移行先を訪問しての引継ぎや、電話による引継ぎを行っている。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	14		<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設と同様にして引継ぎを行っている。また、 ・支援学級も図ったほうがよい。相互理解がやすい。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	12	2	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童発達支援センターとは、相談担当職員を中心に通所児の動向や相談対応についての情報交換を頻回に行っている。関係機関が集まって行われる自立支援協議会などの会議やネットワークなどで共に参加することが多い。都や特別区が主催する研修にはできる限り参加できるようにしている。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか	1	13	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大以前には、来所・訪問・保護者の見学といった形で交流していたが、新型コロナウイルス感染拡大以来、他の施設との交流は難しく、今年度も実施することができなかった。今後、感染が落ち着いている状況が続けば、対人的な交流は難しいとしても、施設見学や、施設訪問のような方法で交流できるよう検討する。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	12	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターのため、自立支援協議会の事務局であり、各部会の運営を行っている。係長級職員が自立支援協議会に参加しており、その内容について報告している。他の職員も高い関心を持っている。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題についても共通理解を持っているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の連絡については連絡帳を通して行っているが、子どもの小さな変化も見逃さないようにして電話で報告するようにしている。保護者が見学に来たときや個別支援計画に関する面談の機会などにより、直接話ができる機会を大切にコミュニケーションをとっている。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	11	3	<ul style="list-style-type: none"> ・親子クラスでは日々の通所での取り組みの中で保護者に助言を行ったり、職員の対応方法を見て実践することが家族支援となっている。 ・親子分離クラスでは、4月に親子参加のプログラムを実施することや、保護者参観で子どもとの具体的な接し方についての提案を行うこと、親子で参加するプール指導などの機会を通して家族支援を行っている。 ・母親以外の家族が参加しやすいよう、休日向けの行事を行っているが、参加は少ない。

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	14	1	・説明会で全体への周知をし、契約は個別に面談する形で実施し、その際に説明を行っている。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	11	3	・通所児全員に対して個別支援計画を作成し、保護者からの同意を得て交付している。計画に沿った支援を行っている。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	15		・予定されている面談の機会は年間に3回程度となっているが、必要に応じて随時実施している。 ・通所児の母親だけでなく、ご家族にも発達についての理解を深めてもらうため、休日に座談会や参観の機会を設けている。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	15		・父母の会の活動は保護者が中心となり運営しているが、その活動の相談に乗ることや場所の提供などについて支援している。お楽しみ会では、保護者の出し物をしてもらった。保護者が協力して作成し、子どもに見せることができた。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15		・クラスの職員だけではなく、幼児発達支援室の対応について苦情があるときには、苦情担当職員がいることや、クラスでなく事務所にいる職員も相談に乗れることを周知しており、実際に活用もされている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	15		・月のおたよりを発行し、その月の予定については確認できるようにしている。保護者連絡会では、3か月先の予定を早めに知らせている。 ・月のおたよりの裏面では子育てについての情報や、子どもたちの成長を伝える特集記事も掲載している。
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	15		・個別ファイルに入れ、鍵付きキャビネットにカギをかけて保管している。 ・個人情報保護の研修についても積極的に参加している。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の様々な場面で視覚提示を多く取り入れ、理解いよう工夫している。 ・子どもとのコミュニケーションに必要なことばは、単語や二語文で伝えるようにし、指さしや身振りも活用して伝えるようにしている。 ・保護者には、小さな出来事や変化についても報告するようにしている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	6	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉センターとして障がい者週間記念事業を実施している。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルは、令和4年度に更新され、全職員が確認している。 ・月に一度避難訓練を実施している。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回避難訓練を実施している。 ・マンネリ化している部分もあるので、視点を変えることも必要。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・確認している。他に脱臼しやすい子や食物アレルギーのある子についても確認を行い、通所開始時には対応できるようにしている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・医師からの指示書をもとにした対応を行っている。アレルギーのある子どもの保護者・栄養士・担任が集まり、毎月アレルギー会議を実施している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> ・所内でヒヤリハット案件整理表を作成し、反省点や再発防止策について検討している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止研修ブックの読み合わせや虐待防止伝達研修への参加を通して、職員全員で虐待防止について共通理解をしている。 ・虐待防止チェックシートを利用し、年に3回個別にチェックしている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	15		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議を実施する際に、身体拘束を行う可能性について個別に検討し、その内容を個別支援計画に記載している。やむを得ず身体拘束を行った際には、身体拘束適正化会議にかけ、その対応が適正であったかどうか検討している。